

ウイルスプロテクターに関して

該当製品ウイルスプロテクターの原料をみると、次亜塩素酸ナトリウム・クエン酸とあります。(ジクロロイソシアヌル酸とクエン酸の混合物と考えます)

通常、弱アルカリ性の次亜塩素酸ナトリウムにクエン酸等の酸性の液体を混ぜると塩素ガスの発生等、危険な現象がでます。

これらは、トイレの洗剤に混ぜるな危険と言う表記がなされてる事と同様となります。

この錠剤は、多量の水に浸かると反応が進み危険なものとの想像が付きます。

原料の次亜塩素酸ナトリウムは、液体の殺菌剤として使用する物であり、この様な酸性物と混ぜ合わせて固形物を携帯型の除菌剤として製品化する事は通常ありません。

弊社、製品に付きましては、原料の亜塩素酸ナトリウムとアルカリ性液剤を混合させ、弱アルカリ性で安定です。但しこの状態では二酸化塩素ガスはでませんので、空気中の炭酸ガスで反応する仕組みとなります。

この反応は、微量の反応であり、安全性を第一に設計しています。

発生するガスも二酸化塩素ガスであり、塩素ガスの発生はありません。

また、二酸化塩素ガスは残留性がなくウィルス等に効果が高く耐性菌が出来ないなどの特徴があり、採用に至った経緯があります。安全濃度設計もしており、通常使用ではその濃度以上に高くなる事はありません。

また、顆粒剤を包んでいる資材も撥水性の資材を使用しており、水をはじく設計となっています。万が一水が浸入した場合でも、反応が止まり、二酸化塩素ガスは出なくなります。

今回、問題がありました製品とは、原料・設計思想・安全性は全く違うものです。

平成 25 年 2 月 19 日

株式会社バイオット
株式会社ブライス